Japan Asia Cultural Exchanges
JACE PARTNER
Action for the United Asia

ジェイスパートナーズアクション

SDGsをボランティアで終わらせない 地域密着・共生企業が切り拓く「社会貢献型ビジネス」の未来

株式会社山長

持続可能な地域貢献へ、できることを具現化

持続可能な地域の実現に向け、多くの企業がSDGsやCSRを掲げ、地域貢献活動に取り組んでいます。しかし、活動が企業の善意や一時的な費用負担に依存している場合、景気の後退や経営環境の悪化によって継続が難しくなることがあります。茨城県小美玉市を拠点とする株式会社山長（以下、山長）が目指しているのは、ボランティアで終わらせず、自立したビジネスとして継続するSDGsです。事業を通じて社会課題を解決し、適正な対価を得る。その収益を事業の継続や新たな社会還元へ充てる。この循環を確立することで、地域貢献は持続可能な仕組みへと変わります。

地域の暮らしと安全を支える総合建設事業

山長は地域の生活基盤を支える建設事業を中心に成長してきました。道路整備、下水管などの埋設物に関する工事、外構工事、土地造成をはじめ、幅広い土木施工を手掛けています。また、同社は高齢化が進む地域の課題にも向き合っています。広い敷地を持つ農家や高齢者世帯にとって、庭木、雑木林、竹林などの伐採や管理は大きな負担です。同社は「次の世代に負担を残したくない」という住民の思いを受け止め、身近な作業にも丁寧に対応してきました。こうした積み重ねが、地域との信頼関係を築く礎となっています。

また、霞ヶ浦に近いという地域特性を踏まえ、災害時への備えにも力を入れています。敷地内には重機、ダンプカー、トラックなどを配備し、風水害や土砂災害の発生時に対応できるよう、土のうも備蓄しています。建設会社にとどまらず、平時から地域の暮らしを守る。同社の総合建設事業には、地域インフラを担う企業としての強い責任感が表れています。

青果事業で地域農業を支える

全国有数の農業県であり、首都圏の食料供給を支える茨城県において、山長は地産地消の推進と農産物流通の安定化に取り組んでいます。同社の青果事業は、農産物に関する専門知識を持つ人材が加わったことを契機に始まりました。主に葉物野菜を取り扱い、地域の農家と販売先をつなぐ役割を担っています。農産物流通には、既存の強固なネットワークがあります。新たに参入し、生産者や関係機関から信頼を得ることは容易ではありません。同社は、農家との対話を重ね、誠実な取引を継続することで、独自のパートナーシップを築いてきました。

現在、農業現場は気候変動による厳しい影響を受けています。夏の酷暑や水不足による不作に加え、豪雨による農地周辺の冠水も深刻な問題です。ハウス内へ直接水が入らなくても、周囲に滞留した水を根から過剰に吸収することで、葉物野菜が傷んでしまうことがあります。こうした気象リスクに直面する農家にとって、安定した出荷先と流通経路の確保は、営農を継続するうえで重要です。

山長の青果事業は、農産物を流通させるだけでなく、生産者の事業継続と地域の食料供給を支える役割を果たしています。安心安全な野菜は、地域の小学校の給食センターにも納入されています。

不用品オークションで資源循環

使わなくなってしまったものや遺品整理、住宅解体などによる不要品の回収現場では、まだ使用できる物品まで廃棄されることがあります。これらを単なるゴミとして処分するのではなく、価値ある資源として再流通させることは、循環型社会を実現する上で重要です。

山長が展開するオークション事業では、回収された物品をインターネットを通じてライブ形式で全国の購入希望者へ紹介し、新たな所有者へつなげています。時間や地域の制約を受けにくいオンライン型の仕組みにより、多様な物品の再流通を可能にしています。

新事業で社会課題の解決を目指す

①薬剤フリーのサシバエ捕獲剤

畜産現場では、吸血害虫のサシバエが家畜にストレスを与え、乳量減少や成長不良を招いています。山長が取り扱う捕獲剤は、殺虫剤を使わずに農家の負担軽減と動物福祉の観点の両面から、全国の畜産地域や競走馬関連施設への展開を目指しています。

②バッテリー火災対応の消火製品

電気自動車や蓄電設備の普及に伴い、熱暴走や再発火を伴うリチウムイオンバッテリー火災への備えが課題となっています。山長はジェイアール西日本商事とタイアップして専用消火製品を取り扱い、交通機関、物流施設、駐車場、事業所などへの普及と適切な防火知識の啓発に取り組んでいます。

③酵母と酢で農作物の生産性向上

気候変動や肥料価格の上昇に対応するため、無機ミネラルをナノイオン化する農業用資材の導入を進めています。実証を通じて効果や安全性を確認し、収穫量と農家所得の向上、化学肥料への依存軽減、食料安全保障への貢献を目指します。

「感謝される持続可能なビジネス」を力に

山長が目指していることは、社会的な必要性が高いにもかかわらず、十分な解決策が提供されていない分野へ進出し、人や地域の困りごとを事業によって解決することです。地域のインフラを守る。農家の生産と流通を支える。不要品に新たな価値を与える。畜産、防災、農業の課題に新しい技術で応える。これらの事業は一見すると異なるように見えますが、その根底には「地域に必要とされ、感謝される仕事をつくる」という共通の理念があります。

ジェイスパートナーズメッセージ Message

株式会社山長
代表取締役 長澤守氏

◆社会的価値と経済的価値の両立の実現を目指して

私たちが目指しているのは、社会貢献を一時的な善意で終わらせず、持続可能な事業として社会に根づかせることです。地域や産業が抱える課題に向き合い、そこに新しい技術や発想を結びつけることで、社会的価値と経済的価値の両立を実現してまいります。誰かの困りごとを解決することが仕事となり、その仕事から生まれた利益が、次の課題解決へと循環していく。その積み重ねこそが、企業と地域が共に成長する未来につながると考えています。これからも既成概念にとらわれず、社会から必要とされ、感謝される事業を創り続けてまいります。

株式会社山長について Company

■住所：〒311-3436 茨城県小美玉市上玉里 1129-3
■事業内容：総合建設業／青果取扱業／農業畜産資材取扱業
■グループ企業：㈱ユナイテッドブルーム（リサイクル事業）
取扱品目例：小型家電／ OA 機器／カメラ／時計／ギター／アクセサリー／玩具など

https://www.kk-yamachou.co.jp/

かつて遊んだおもちゃや家にあった置物を思い出と共に引きつぐ。

＜参考＞山長の SDGs への取り組み例

◆地域サポートプロジェクト◆

オークションの売上の一部を子供食堂に寄付をしたり、傷がついてしまっているなど、出荷規格に適合していない野菜の寄付をする計画をすすめています。

◆もったいないプロジェクト◆

回収した品物のなかでオークションでは値が付きにくいものの、まだ使える品物は、公益社団法人日本マレーシア協会の協力のもと発展途上国の教育支援などにつなげています。加えて、福祉施設への寄付も計画されています。